



Title	OUKA News Letter : 第3号
Author(s)	大阪大学附属図書館 電子コンテンツ担当
Citation	OUKA News Letter. 2020, 3
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/75367
rights	
Note	バックナンバーは下記からご覧いただけます。 大阪大学刊行物 : OUKA News Letter

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

OUKA News Letter

第3号 2020.03

OUKAニュース

経営企画オフィス研究支援部門、研究推進本部と共同で セミナー「学術論文発表を取り巻く最新動向」を開催

去る2020年1月24日（金）、大阪大学附属図書館、経営企画オフィス研究支援部門、ならびに研究推進本部は共同でセミナー「学術論文発表を取り巻く最新動向：オープンアクセスの現在」を開催しました。



■ 概要

日 時 2020年1月24日（金） 14:00～17:00

場 所 生命機能研究科 生命システム棟2Fセミナー室

参加者 97名

（所属内訳） 附属図書館12名、学内他部局60名、他機関25名

（身分内訳） 教員・研究員41名、URA 10名、図書館職員37名、その他職員6名、大学院生3名

備 考 文部科学省「研究大学強化促進事業」、および「大阪大学新任教員研修プログラム（研究能力開発プログラム）」の一環として開催しました。

■ プログラム

14:00～14:05	開会挨拶 菊田 隆 大阪大学経営企画オフィス 副オフィス長
14:05～15:35	講演「学術論文発表と研究評価を取り巻く環境の大変貌 ーオープンアクセス誌がもたらすパラダイムシフト」 ■ 船守 美穂氏：国立情報学研究所情報社会相関研究系 准教授
15:35～15:50	休憩
15:50～16:20	講演「ハゲタカOAにどう向きあうか」 ■ 佐藤 翔氏：同志社大学免許資格課程センター 准教授
16:20～16:35	報告「大阪大学のオープンアクセス出版促進に向けた支援状況について」 ■ 三木 保孝：大阪大学附属図書館 専門職員
16:35～17:00	質疑応答 閉会挨拶 北村 照夫 大阪大学附属図書館 事務部長

特集記事

Switching-ON OU+OA

このコーナーでは、大阪大学で研究活動に携わる皆様にオープンアクセス関連情報をお届けいたします。

今回のテーマ： 1/24セミナー開催報告

前頁の開催概要に続いて、セミナーの内容をごく簡単にご紹介します。
発表資料は大阪大学学術情報庫OUKAにおいて公開中ですので、ぜひご覧ください。

■ 船守美穂氏

「**学術論文発表と研究評価を取り巻く環境の大変貌—オープンアクセス誌がもたらすパラダイムシフト**」



最初に船守先生より、オープンアクセス（以下、「OA」という。）をめぐる問題全体を見渡す講演をいただきました。

まず、学術雑誌の価格高騰への対抗として興ったOA運動と、APC（論文出版加工料）により出版費用を賄うOA誌が生まれた経緯が解説されました。そのうえで、商業出版社が発行する、購読料を取りつつAPCによってOA化できるハイブリッド誌については、二重払いの問題があると指摘されました。

次に、完全なOAへの移行に向けて、現在の購読料をすべてAPCに振り替える提案や、最近広がりつつある「Publish & Read契約」が紹介されました。

ただし、完全なOA化がなされても、APCが高額であれば、論文が発表できません。それに対して、APCを補助する仕組みをどう作るかという点や、APCが不要なOAモデルについて紹介がなされました。

最後に、そうしたOAとデジタル時代のなかでは、論文数、被引用数といった量的指標で研究力が測られていますが、論文の乱造と、研究再現性の危機やハゲタカジャーナルといった問題を生んでいます。それに対して、論文の健全性の担保をすべく、査読システムの改革やエビデンスデータの公開等、学術評価方法の変化が始まっていることが指摘されました。

■ 佐藤翔氏

「**ハゲタカOAにどう向きあうか**」



続いて佐藤先生には、ハゲタカジャーナル問題についてご講演をいただきました。

講演の前半では、「ハゲタカ」のおおまかな定義と、それらが蔓延していることが示されました。そのなかでハゲタカの本質は、「本当は査読をしていないのに『査読誌』を詐称していること」と提起されました。それらが蔓延する背景には、研究競争の熾烈化や研究発表への圧力の増大といった問題があり、そこに研究者が付け込まれている、あるいは意図的に利用していると指摘されました。

後半では、そうしたハゲタカへの対策方法について検討されました。「ブラックリスト」や

「ホワイトリスト」の作成、「チェックリスト方式」といった方法があるものの、それらは万全の対策ではないと指摘されました。ただし、現在の普及率は低いものの、「オープン・ピア・レビュー」や第三者が査読の存在を担保するツールといった査読保証・証明システムがひとつの対応策となりうる、と示唆されました。

■ 三木保孝

「大阪大学のオープンアクセス出版促進に向けた支援状況について」



最後に附属図書館の三木より、大阪大学における、ゴールドOAとグリーンOAそれぞれの支援状況について報告いたしました。

まず、高額なAPCへの支援として、研究推進部による「英語論文のオープンアクセス掲載料支援」の概要および検討課題について、研究者の声を交えて紹介いたしました。

一方のグリーンについては、その支援内容や、大阪大学学術情報庫OUKAの現況と課題を紹介いたしました。

最後に、「大阪大学オープンアクセス方針（案）」の策定や、研究データ管理といった新しい動きにも言及いたしました。

■ 当日発表資料をOUKAで公開中、映像もCLEで公開予定

本学の機関リポジトリである大阪大学学術情報庫OUKAにおいて、3名の当日発表資料を公開中ですので、ぜひご覧ください。

当日の講演の様子は大阪大学CLE（授業支援システム）にて公開し、視聴いただけるようになる予定です。また、当日発表資料の英語版も公開予定です。これらは公開次第、お知らせいたします。

■ 質疑応答



講演・報告に引き続き、フロアの参加者と質疑応答が行われました。

フロアからは「『二重払い』は悪いのか？」「『市民の視点も入った研究評価』について」「なぜ査読は無償で行われているのか？」「非英語圏ではAPCはdiscountされるべきでは？」「出版社との攻防の将来展望について」といった内容について質問があり、船守・佐藤両先生から詳細な解説をいただきました。

■ アンケート結果より

参加者のアンケートでは、「今までない話題のセミナーだったので、大変参考になりました」「最近ホットなトピック、かつ、身近な話題で、とても勉強になりました」など好評をいただきました。

また、「出版社からの講演があってもよかった」「分野を超えた意見交換をできる場があれば良い」といった声も寄せられました。

附属図書館では、今後もイベントの開催も含めて、OAや学術出版に関して最新の情報を発信していきたいと考えています。

大阪大学学術情報庫OUKA
<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

OUKAトップページ
 > 雑誌ブラウズ
 > 大阪大学刊行物
 > 附属図書館
 > 講演会・シンポジウム記録



附属図書館・電子コンテンツ担当からのお知らせ あなたの論文を、OUKAで公開しませんか？

OUKAで論文を公開すると、世界中の読者が無料でアクセスできます。

著作権調査など、公開にあたり必要な作業は図書館で行います。
コンテンツ公開のご依頼やお問い合わせ、ご相談など、まずはお気軽に
附属図書館・電子コンテンツ担当までご連絡ください。

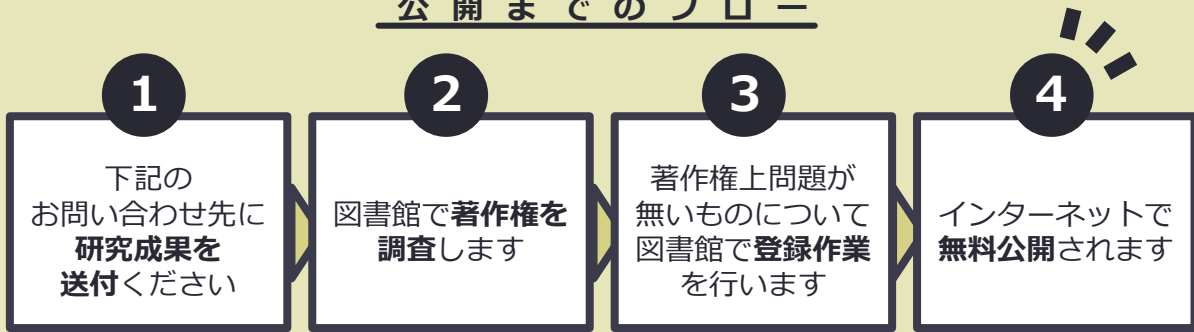


OUKAちゃん

OUKAに登録するメリット

- (1) 研究成果の可視性・知名度の向上につながる
- (2) 研究成果が無料で永続的に維持・管理される
- (3) 冊子体が無くともオープンデジタルコンテンツとして研究成果を公開できる

公開までのフロー



登録の条件

研究成果を登録できる方

- (1) 本学に在職し、又は在職した役員及び教職員。
- (2) 本学大学院（博士前期課程及び修士課程を除く。）に在学し、又は在学した大学院生。
- (3) 第1号に掲げる者を構成員に含む団体。
- (4) その他、附属図書館長が適当と認めた者。

登録することができる研究成果の種類

学術雑誌論文、博士論文、紀要論文、研究成果報告書、図書、会議発表用資料、教材、
本学所蔵の学術情報資料
その他、附属図書館長が適当と認めたもの

お問い合わせ先

附属図書館・電子コンテンツ担当 ouka@library.osaka-u.ac.jp